

「大学病院での定期口腔管理について」

九州歯科大学小児歯科学講座

西 田 郁 子

日常の小児歯科臨床における定期検診の重要性は、口腔内疾患の予防、早期発見、早期治療という目的のためである。また、とくに成長発育過程にある総合的咀嚼器管の健全な発育をはかるため、つねに成長発育過程の流れのなかで現症に対する適応を考えなければならない。しかし、診療体制、スタッフの数、保護者の協力などが大いに関与し、実際には理想どおりに定期検診を行うことは非常に大変なことである。

今回は大学附属病院での定期検診ということであるので、九州歯科大学附属病院小児歯科外来における定期検診について整理したので、教室で行っている一連の流れを報告する。

大学附属病院では、小児歯科をはじめとしたそれぞれ診療科の専門医によるチームアプローチが可能となることが開業医と大きく異なるところである。現在、当大学病院では、患者の状況によって、保存科、補綴科、矯正科、歯科麻酔科などの診療科とチームアプローチを行っている。他科とどのように協力しあって定期検診をすすめていくか考えてみたいと思う。

さらに、近年、咬めない子どもが増えているという状況のなかで、定期的に咬合力、咀嚼力を測定することで、咬むことに関する興味を起こさせ、咬む機能を高める一因にすることはできないか咬合機能の分析などを検討している。

以上のように大学附属病院における特徴と将来定期検診をどのようにとらえていくのか九州歯科大学附属病院を例にして述べることにする。